

部長帰る

作・盛岡一高演劇部（生徒顧問創作）

【キャスト】

部長… 演劇部部长・3年（不在）

柴田（シバちゃん）… 副部长または部長代理・3年

シオリ… 演劇部員・3年

エマ… 演劇部員・3年

ハジメ… 演劇部員・2年

リコ… 演劇部員・2年・ハジメの彼女

きらり… 演劇部の新入部員・1年

コータ… ハジメの友だち・2年・軽音楽部員

マユ… 部長の妹・1年・コータの後輩

■第1場 演劇部室にて

演劇部の部室。歓迎会の準備中。

コータが一人音響の配線らしきことをしている。

校内放送からチャイムの音。

コータ (チャイムを鼻歌で歌う)

あたりをキョロキョロしながら、女子が登場。
ドアのあたりに立ち止まる。

女子 (おそろおそろ) あのー

コータは気づかない。

コータ (メロディがだんだん激しくなる)

女子 あのー。演劇部の方ですか？

コータ (気づいてびっくり) え？

女子 え？

コータ え？

女子 え？

コータ え？ あ、演劇部じゃないです！

女子 え？

女子、逃げるように立ち去る。

コータ何が起こったかわからない。

コータ あ。

ここ。ここは、演劇部ですー！

コータ、気づいて後を少し追うが、
追いつけなかったらしく、戻ってくる。

■第2場 歓迎会はまだ始まらない

エマとシオリがドア方向から入ってくる。
手に手に菓子類やジュース類。

シオリ だから違うんだって。

エマ 違うないでしょ。

シオリ 違う。

エマ 違うない。

シオリ 違う。

エマ 違うない。

シオリ わかった。じゃあ聞いてね。

まず、これが五十分授業ね。

(歌う キンコンカンコーン)

エマ うん。

シオリ それでこれが四十五分の。

(歌う キンコンカンコーン)

間

エマ 同じじゃん。

シオリ えー? 違うよ。

エマ えー?

コータ、横から口を出す。

コータ (シオリ) 違いますよね。

シオリ (喜んで) 違うよねー。

(エマに) ほらー

エマ えー? わかんないー

シオリ エマ、音感ないからわかんないかー

エマ どーせ私はシオリみたいに絶対音感ないから。

コータ おれ、ないですよ。

エマ 何?

コータ 絶対音感。

絶対音感なくてもわかりますよ。

五十分授業と四十五分授業のチャイムの違い。

間

エマ （コータに） あんただれ。

シオリ そうだ、だれ。

エマ あ、新入部員？

シオリ え、新入部員って、女子じゃないっけ。

エマ うん、女子一人。

コータ 違います。新入部員じゃないっす。

おれ、軽音部です。

シオリ あー、ハジメ君の友だち。

エマ だれ？

シオリ ハジメ君が呼んでて。歓迎会で音響のセット使うとか言ってさ、その手伝いとかで。

コータ 手伝いです。

エマ ハジメが自分でやればいいのに。

シオリ 音響係なのにね。

コータ あーあいつ、今忙しいっていうか、頭も心も春なんで。

シオリ あー、ハジメ君は春だねー。

コータ でしょー？

シオリとコータ、気が合う感じ。

エマは少し離れて、何か物をいじったりしている。

シオリ なんで今年から四十五分授業のチャイム、変わったのかなー？

コータ さあ？ でも、なんか知らないけどずっと四十五分授業ですよ。

シオリ なんで？

エマ、少し遠くから。

エマ 一年生が授業に慣れてないからだって。

シオリ あーコロナ関係で。

コータ コロナ関係で。

エマ あたしも授業慣れないー。

シオリ 休みが多くて、体が慣れないよねー。

コータ だから（ぐるっと見回して）歓迎会も遅くなっちゃったんですね。

シオリ それそれ。

エマ 新入部員、かろうじて一人。ゼロかと思ったよねー。

シオリ コロナ関係で。

エマ うん、コロナ関係で。

コータ それ、コロナと関係なくないですか？

シオリ まーそうかー。

でも演劇部は、一人いるかないかじゃ大違いだから。
コータ そうですか。

シオリ ほれ、これ見て。
ジャジャーン。

シオリ、小さな箱を取り出す。

コータ (のぞきこんで) ケーキですか？

シオリ えへへー

コータ ちっちゃ：あ、一人分なんですネ。

シオリ そ、1年生の分。

エマ 新入部員、だいかんげい！ を祝して。

コータ はあ。

エマ ま、部員がうじゃうじゃいる軽音部にはわかるまい。

コータ あ、さっきの子、もしかして新入部員かな？

エマ え？ 新入部員は遅れて来るって聞いてたけど。

シオリ リコちゃんじゃないの？

エマ あ、リコちゃんも新入部員か：新入部員にカウントしてなかったわ。

コータ おれ、リコちゃんなら知ってます。

シオリ リコちゃんは2年生だし、それにー

エマ ハジメつながりの、不純な入部だからねー

シオリ 不純ってー

エマ あんなバカップル、数のうちに入れるー？

そこにバカップル、ハジメとリコがイチャイチャしながら部屋に入ってくる。

リコ ハジメくん、それすごくない？

ハジメ え、リコちゃん、気づかなかった？

リコ 全然気づかなかったー

ハジメ えー全然違うじゃん。

リコ えー四十五分も五十分もいっしょじゃないー？

ハジメ みんな気づいてると思ったー

リコ それ、ハジメくん、絶対音感あるからじゃない？

コータ いやそれ、絶対音感と関係ない：

ハジメ (大声で) えー、おれ、絶対音感あるのかなー

リコ あるよー、ほらハジメくん、ギター弾けるしー歌もうまいしー、

ハジメ えー、リコちゃんだってー

リコ えーなにー？

ハジメ リコちゃんはー(照れて) かわいいしー

リコ えー

二人、こんな感じで永遠に続きそうだが

コータ ほら、リコちゃんだって新入部員じゃないですか。
エマ だから数に入っていないって。
シオリ あとはー、シバちゃんが来てない。
ねえねえ、シバちゃん遅くない？

■第3場 「部長帰る」は、いい知らせ

柴田、なにか考えながら部室に入ってくる。

エマ おー、シバっちゃんー
コータ 新入部員ですか？
シオリ シバちゃんは3年。うちの部長代理。
コータ 代理？
エマ （柴田に）あと1年生が来たら全員集合だよ。
柴田 うん：
シオリ どうしたの？ なんか悪い知らせ？
柴田 ううん全然。いい知らせ、いい知らせ。
エマ もう一人新入部員とか？
シオリ えー、もっと全員集合？
柴田 部長が帰ってくる。
シオリ え？

みんな、柴田を見る。

柴田 部長が、帰ってくる。

間

エマ いつ？
柴田 さっき、職員室で、顧問に呼ばれて。
エマ いやいつって…部長、もう来てるの？
柴田 あ、いや、それは違くて…ううん、ごめん。
エマ シバちゃん…
柴田 （気を取り直して）部長が、学校に戻ってくるって。当然演劇部にも。
まだ本人には会えてないけど…いい知らせだよな？ うん、よかった。
シオリ うん、よかった。ね？
エマ うん。

柴田 うん。

エマ そうか、部長、帰ってくるのかー

間

コータ 部長って、ハジメがよく話してた先輩だろ？

ハジメ ええっ…！

コータ たしか、色が白くて、キレイで、髪サラサラの、やさしい先輩…だよな。

ハジメ う…ううん、そそそう…

コータ たしか1年の時、ハジメはその部長さんに声かけられて入部したんだよねー？

リコ 誰が髪サラサラ？

ハジメ （大声で）わーっ！

ハジメ、コータを取り押さえて黙らせる。

リコ （ハジメたちには気づかず、シオリに）あのー、部長って…

シオリ あー、リコちゃんは会ったことなかったかー

うん、しばらく休んでいてね。1月からかなー、（数えて）もう3ヶ月以上…？

リコ 病気かなんかで…

シオリ あー、そういうのではないんだけどね…

なんか、突然、学校に来なくなってる…

リコ 3年生ですよ？ 進級できたんですか？

シオリ うん…ていうか、たぶん、名簿にはあったから。

柴田 やだ私、少し動揺してた？

エマ するよー

シオリ もっと動揺しているのがあっちにいるよ。

ハジメ、明らかに動揺している。

コータ あ！

ハジメ なななんだよ。

コータ さっきの、たぶん、部長さんかなあ？

シオリ なに？

コータ ちょっと前におれ、ここで、女の人、見かけて。

シオリ うん？

コータ あれ、部長さんじゃなかったのかな…

間

柴田 部長、来てる…

シオリ 来てるんだ…

エマ 来てる…

柴田 歓迎会、どうしようか…

シオリ だって、これ（あたりを見渡して）

エマ 部長が来てても関係ないじゃない。

柴田 これだとまるで…部長を歓迎しているみたいじゃない？

シオリ え、歓迎しないの？

柴田 いやそうじゃなくて。

エマ そりゃ、シバちゃんからしたらそうでしょ。

せっかく副部長から部長代理に昇格して、いよいよ部長ってここにねえ。

柴田 （笑）もちろんそんなことはどうでもいいんだけど、

エマ （笑）えーほんとー？

柴田 …だって、なんか、大々的に「部長、歓迎！」なんてやったら、
ちよっと、どうよって…

エマ だって別に部長の歓迎会じゃないじゃん。

柴田 うん、それはそうなんだけど

タイミング的にね、しばらく休んでてさ、帰ってきて力一杯励まされると逆にほら、

シオリ ああ、逆に、うん。

エマ シバちゃん、やっぱりそうなんじゃない。

柴田 ええ？

エマ シバちゃん、部長を、歓迎、してないんじゃない？

柴田 …

シオリ そんなこと、

柴田、小さなサボテン鉢を手取る。

シオリ でしたの。

柴田 これ。

シオリ あゝ、サボテンが枯れてるー！

柴田 どうしよう…

エマ サボテンって枯れるの？

コータ 枯れますよ。

エマ どうかな…

コータ 枯れますよ。

エマ そもそもそれ、ほんとに枯れてるの？

柴田 枯れてるよ、気づかなかった…どうしよう…

リコ どうしようって、何がですか？

シオリ これ、部長が大事にしてたサボテンなんだよね。

リコ 部長さん？

エマ　なんか細々（こまごま）と手入れしてたりしてたよね。
コータ　タイミング悪いですね

柴田　うん…

エマ　いいんじゃない？　そんなの気にしないで。
柴田　そういうわけにはいかないよー

（サボテンをいじりながら）　どうにかできないかなー…

放っというていいんじゃない？

エマ　だって、

柴田　だって、放っというたのは部長でしょ。

エマ　サボテンも、演劇部も。

部長の方から放っておいたのに、私たちが気にする義理はないんじゃない？
シオリ　また厳しいことを。

リコ　あのー

柴田　あ、なに？

リコ　今日のこれ…歓迎会って、だれの歓迎会ですか。

エマ　え、いまさら？

柴田　１年生の新入部員だよ。

シオリ　きらりちゃん、っていう１年生。

リコ　あ、そうですか…

シオリ　え？　なに？

きらりが顔をのぞかせる。

コータ　ハジメー

ハジメ　なんだよコータ。

コータ　１年生、じゃない？

きらりが部屋に入ってくる。

きらり　遅れてしまって（すみません…）

みんな　（□々に）わー。よく来たねー。きらりちゃんだよねー。（とかなんとか）

柴田　すわってすわってー。

シオリ　はい、これ、きらりちゃんのケーキ。

エマ　シオリ、それ早すぎないー？

リコ　あのー…

ハジメ　（みんなに聞こえるように）　いやーコータ、手伝ってくれてありがとう。
コータ　え？

ハジメ　（わざとらしく）　いやー助かったー、後はオレだけでやれるからー

コータ あ？
ハジメ じゃあな！

ハジメに追い出されるように、コータ出て行く。

■第4場 歓迎会がようやく始まる

音楽。

歓迎会が始まる。

ハジメ、エアーでギターを弾く。

きらりが歌を歌う。

みんなはきらりを盛り上げる。

音楽止む。

■第5場 「部長帰る」ってどうよ

シオリ さて、無事歓迎会も終わったということでは？

リコ 次の歓迎会はいつですか？

シオリ え？

エマ なに？

リコ 今のは、きらりちゃんの歓迎会ですね。

次は…（自分を指さす）

ハジメ リコちゃんの歓迎会！

柴田 リコちゃんも新入部員だった…

リコ 自分で言うのもなんですけど。

きらり あ、ケーキ、私だけが食べちゃって…

柴田 いいのいいの。

エマ （リコに）あのね…

シオリ たしかに、リコちゃんだって新入部員だわ。

柴田 うんうん、リコちゃんの歓迎会、開こう。よし！

エマ 今から？

リコ あ、その前に。

柴田 え？

リコ 部長さんの歓迎会ですね。

みんな え？

リコ 私のは後回しでもいいですけど、部長さんは、もう帰ってくるわけだし。

間

柴田 部長の歓迎会…

ハジメ リリリ、リコちゃん。

シオリ リコちゃん！

リコ はい？

シオリ えと…ケーキ。うん、ケーキもないし…

きらり 部長さんって、ヤナ人なんですか？

間

柴田 えーと、ね、きらりちゃん。

エマ はっきり言うねー

シオリ そんなことないよ。

柴田 うん、部長は、すごく、いい人。

リコ （ハジメに）ヤナ人じゃないよね？

ハジメ え？

リコ だって、部長さんって、髪さらさらの、きれいな、やさしい人なんでしょう？

ハジメ ええええ！…あの、リコちゃん。

柴田 あ、そうだ。

リコちゃん、きらりちゃん、コモンの所に来てくれ、って言われてた。

入部の手続きがあるからって。

ごめん、忘れてた。

リコ 今ですか。

柴田 よろしく。

きらり はい、じゃあ。

リコ 行ってきます。

リコ・きらり、出て行く。

エマ ハジメ、動揺の巻。

シオリ エマー。

ハジメ みなさん、すいません！ お願いがあります！

エマ お、なにに。

ハジメ リコちゃんは！

みんな？

ハジメ リコちゃんは、おれの、おれの…何も知らないんで！ よろしくお願いします。

柴田 何を？

エマ ハジメの片思いの巻でしょ。

シオリ ああゝ

柴田 え？ なに。

シオリ ハジメくんはー、部長のこと、ずっと、好きだったでしょう？

柴田 え、そうなの？

エマ あんなに露骨だったのに、気がつかなかった？

シオリ バレバレだったねゝ

柴田 え？ 告白したの？

エマ してないしてない。

ハジメ お願いします！ そこところ！ 一身上の秘密、ということぞ！

シオリ まあねえ。

エマ どうしよかなあ。

ハジメ 先輩ゝ（泣く）

柴田 エマ。

エマ まあ、いいよ。

柴田 リコちゃんには内緒で。

ハジメ ありがとうございます！

エマ 内緒はいいけど。部長が帰ってきたときどうするの？

ハジメ ええ？

…まあ、それは、なんとか…

エマ ハジメくんは部長を歓迎できるの？

ハジメ え？ それは、

柴田 そもそも歓迎しないなんてありえないから。

ねえ、ハジメ君？

ハジメ もちろん。おれも、部長のこと（考えて）…尊敬していますから。

エマ 尊敬してるんだ。

ハジメ そーそーそー、尊敬、尊敬、お願いします。

ですよ、シオリさん？

シオリ まあ、部長とあたしたちは、ずっと友だちだったし、尊敬っていうより…

柴田 そうね。演劇部で苦労を共にしてきた、っていうか。

エマ 突然いなくなったのはちょっとムカついたけど。

シオリ エマー

エマ　だって、年度末の公演の役決めたばかりだったじゃない。
急に代役やったり、シバちゃんもホールとの打ち合わせとか…
いろいろ大変だった…だよ、シバちゃん。

柴田　まあ、少し。

シオリ　でもほら、欠席してるんだから、しょうがないし…

エマ　それよ。

シオリ　え？

エマ　ほんとにしょうがなかったのかなあ。

シオリ　エマ。

エマ　だって、休むのに何か理由があるならわかるよ。

病気とか、イジメに遭ってるとか、すごく悩んでるとか、
でも、そんなことなかったよね？

柴田　エマ。

間

ハジメ　おれのせい、ってことは、ないかなあ…

シオリ　ハジメくんのこと？　なんで？

ハジメ　いやいやいや、そんなことないし、うんうん。

リコ・きらり、帰ってくる。

柴田　あれ？　早かったね。

きらり　コモンの先生、職員室にいませんでした。

リコ　ハジメくん（とハジメに寄る）

エマ　用あるときはいつもいないんだよね。

シオリ　だね。

きらり　それより、今、だれかそこから部室をのぞいていたんですけど、

柴田　え、だれ？

きらり　ああ、女子ですよ。なんか髪さらさらの…

間

柴田　部長？

エマ　部長？

ハジメ　部長？？

みんな、口々に部長を呼びながら、外に飛び出す。
音楽。

■第6場 部長はなぜ消えた

部室に人がぼつぼつと戻ってくる。

シオリ・エマ・きらり・リコである。

シオリ みんな、どこまで行ったの？

エマ ハジメとか、すごい勢いで渡り廊下から見えなくなった。

リコ ハジメくん…

きらり 元部長さんって、やっぱりやな人なんですか？

シオリ きらりちゃん。

エマ 元、じゃないしね。

リコ え、いまでも部長なんですか？

エマ うーん。

シオリ 帰ってくると思ってたよね。

エマ 特にシバちゃんがね。

シオリ 絶対帰ってくるから、みんなで待とう、って。

エマ そう言ってたね…

リコ そもそもなんで来なくなったんですか。

シオリ うーん、

エマ えー

シオリ 何でかなー

エマ まあ、あんまり自分のこと話さなかったかなー

シオリ うん、グチとか人の悪口とか言わないし…ホントは、何考えてたかなあ。

エマ シオリとは一番話してたじゃん。

シオリ うん、だけど、ほぼ推しの話だったし。

きらり （身を乗り出し）え？先輩、なに推しですか？

エマ ジャニーズだよねー？

きらり ああ…（と引っ込む）

シオリ 推しの相手はそれぞれ違うんだけどね。

エマ 熱く語ってたよね。

シオリ それに私、推しが変わったし。

エマ そうなの？

リコ 先輩は知らなかったんですか。

エマ そっち方面興味なくて。

リコ どう変わったんですか。

シオリ えー、エグザイルー

みんな え？

シオリ え？

エマ それは裏切りじゃない？
きらり 裏切りですね…

リコ たしかに。

シオリ え、え、だって、私がエグザイルを好きになったのって、ついちょっと前で、部長がいなくなったのは…あ、部長がいなくなる前だ。

リコ 部長が来なくなったのは、そのせいじゃないですか。

エマ たしかに。

きらり たしかに。

シオリ え？ え？ そんな…

シオリ、呆然として崩れ落ちる。

エマ ま、そんなこともないだろうけど。

リコ そうですね、

きらり そうですね、

エマ 部長って、なんかしつかり者でさ、
きらり はい。

エマ すごく用意がよくって、ほら教室のロッカーなんか、

教科書とか資料集とか全部キチンと整理されてて、

先輩よく知ってますね。同じクラスとか？

リコ ううん、違うけど、しょっちゅう借りに行ってたから。

エマ そういう人いますね。

きらり なんか急いできるときとか借りちゃって、あとで部長本人が困っちゃったーって、

きらり そういう人いますね。

リコ …それじゃないですか。

エマ え？

リコ 借りパクってことですよ、それ。

エマ 借りパクされて、これなに、イジメ？ つらいー、とか。

エマ え？

きらり たしかに。

エマ え？ え？ そんな…

エマ、呆然として崩れ落ちる。

リコ ま、そんなこともないだろうけど。

きらり ないですねー

リコ あとは…

きらり 恋愛関係とか？

リコ ああ、（突然ノリノリ）あるね、あるある。

（シオリとエマに）部長さんは、だれかとき合ったりしてたんですか？

シオリとエマ、少し復活して

シオリ ううん、知らないなー。ねえエマ？

エマ カレシとかいなかったんじゃないかなー

シオリ うん、

エマ なんかわからないけど、モテてはいたけどね。

シオリ エマー

エマ あ。

リコ へー、モテモテだったんですかー

エマ いやー全然。

シオリ うん、全然。

リコ どっちなんですか。

エマ ときどき…モテたり、モテなかったりした…

きらり そういう人いますね。

リコ そういう人って…フツウの人じゃん。

シオリ あー

エマ あー

リコ (笑) きらりちゃんって変わってるよねー

きらり そうですか。

シオリとエマ、少しほっとする。

リコ あ、いま思ってたんですけど、

シオリ なになに。

リコ ストーカー、ってのもアリですよね。

みんな え？

リコ たとえばモトカレとかが、ストーカーになっちゃって、

それに悩んで、もう学校に行けない、とか。

エマ …モトカレとか、いないんじゃないかなー

リコ じゃあ片思い！ 部長さんのことを一方的に好きになった誰かが…

シオリ・エマ えーとー、それはー

きらり リコさん、そんなの、部の皆さんが全然知らないとか、ありえませんか。

シオリ・エマ うん、うん、そうねー

リコ そうかなー。(不満げに) じゃあ違うかー

シオリ・エマ うんうん、違うー

リコ (再び) でも、

きらり 不登校に…理由とかあるんですかね。

リコ え？

きらり さっきリコさん、なんでいなくなったの、って言ってましたけど、
そんなの、理由があるんでしょうか。

…部長さんがどうだったかは、私はわかりませんけど。

間

シオリ 理由はわからなくても…帰ってくるんだよね。

エマ うん。

シオリ …私、ケーキ買ってくる。

エマ え？

シオリ 部長が帰ってきたならさ、

エマ 歓迎のしるし？

シオリ まあね。

エマ 歓迎するんだ。

リコ 歓迎するんですね。

シオリ じゃあ行ってくる。

エマ 私も。

リコ・きらり あ、（私たちは…）

シオリ 二人はここで待ってて。

エマ 行ってくるねー。

エマとシオリ、出て行く。

リコときらり、見送る。

■第7場 柴田とハジメ

照明切り替わって、柴田とハジメ。

柴田 ねえ、私たちにやってんのかな。

ハジメ 柴田先輩、何か言いましたか。

柴田 ハジメくん、私たち何してるんだっけ。

ハジメ え？ それは、部長さんを探しに…

柴田 探して、え、その後は？

ハジメ え？ いやー？

柴田 だいたい、これ、おかしくない？

ハジメ あ、おれのせいで、すみません！

柴田 ハジメくんのせい？

ハジメ なんかいりすみません。

柴田 あ、ううん、ちがくて…私たちよ、ううん、私よ。

だって、部長が戻ってくるの、歓迎するとかしないとか言うの、おかしくない？
ていうか、ひどくない？ うん、ひどいよね。

そもそも、部長は今でも演劇部の部長なわけだし、ていうか、演劇部のメンバーだし。

ハジメ はい…

柴田 私たち、歓迎とか、えらそうにそんなこと言う権利あるのかな？

ハジメ 権利？

柴田 ごめん、なんかよくわかんなくなった。

…私が言いたいの。なんで部長は逃げるの？

ハジメ え。

柴田 なんで部長は、部屋に入ってこないの？

ハジメ 入りづらいから？

柴田 そうよね、やっぱりそうよね。

なんで入りづらいの？

ハジメ …

柴田 私たちが歓迎しないと思っているからでしょ。

うん、たしかにそう言うことはあるかもしれないけれども、あるんだけど。

ハジメ 部長は部長で…みんなに悪いな…と思ってるんじゃない？

柴田 演劇部からいなくなったから？

ハジメ はい。

柴田 それはどうして？

ハジメ それは、

柴田 あーまたグルグル廻りだー。

ハジメくんはさー、部長の、どーゆーところが好きだったの？

ハジメ え！ いや…その…そんなストレートに聞かれると…

…あ、金のミルク？

柴田 金のミルク？

ハジメ 去年の大会のとき。おれ、音響大失敗したじゃないですか？

すごい落ち込んでいたら、部長が、ポンポンって肩叩いて、で、金のミルクくれて、ま、それだけなんですけど…

柴田 はじめて聞いた。

ハジメ はじめて話しました。

柴田 …今まで部長のこと、こんなふうに話したことなかった…。

休み始めてもずっと…なんか避けてた。

エマたちが、部長のことどうする？とか聞いてきても

「大丈夫だから」って言って、考えないようにしてた…。

■第8場 サボテンは枯れてない

照明切り替わる。

部室。リコときらり。

リコはサボテンを手に取り、きらりはスマホをいじっている。

きらり それ、アズレウスっていうらしいです。

リコ え？ なに。

きらり サボテンです。

リコ ふーん…これ、食べられるの？ おいしいのかな…？

きらり …わかりません。

でもそうですね…アロエとか食べられるし…

柴田とハジメ、入ってくる。

リコ ハジメくん。

ハジメ リコちゃん。

きらり 部長さん、見つけましたか？

柴田 ううん。

リコ ハジメくん知ってる？ このサボテン、食べられるんだって。

ハジメ あ、そう…

きらり 嘘です。知りませんから。

柴田 うん…

きらり このサボテン、アズレウスっていうんです。

柴田 あ、そう。

きらり 大きくなると一〇メートルくらいになるんだそうです。

柴田 へえ。

ハジメ でも枯れちゃってるからな。

きらり あ、それですけど、枯れてないみたいですよ？

柴田 え？

リコ きらりちゃんが調べてくれてー。

柴田 枯れてないの？

きらり はい。全然元気みたいです。

リコ サボテンって、枯れてるか腐ってるかわからないよねー？

きらり 枯れてるのも腐ってるのも同じことですよ？

ハジメ え？ これ腐ってるの？

きらり いいえ、枯れてません。

柴田 …サボテン、枯れてなかったんだ…

ハジメ シオリさんたちは？

リコ あ、ケーキを買いに。

きらり 部長さんの歓迎のしるしに。

柴田 …枯れてなかった…

リコ あー、しまったー！

私の分のケーキ買ってきてもらうの、確認しなかったー

（柴田に）あ、先輩。歓迎会、でよかった…んですよね？

柴田 うん…

みんな、歓迎会の準備、しようか。

音楽。

歓迎会の準備、ふたたび。

みんな楽しげに。

そこにコータとマユ、部室に入ってくる。

コータ さっきはどうもー

ハジメ コータ。

リコ コータくん。

きらり あ、部長さん！

みんな え？ へ？

きらり さっき、入り口の所にいた部長さん。髪さらさらの…。ちがうの？

間

コータ えーと…こちら、部長さんの妹さん。

みんな （口々に）いもうと？

みんな、なんとなく会釈する。

コータ 部長さんの話によるとですね、

部長さんは、このたび、学校をやめるんだそうです。

音楽高くなる。

■第9場 部長、学校をやめる

音楽低くなる。

コータ いやー、妹さん、たまたま軽音部の1年生でー、
ほら軽音で、1年生すごく多いから、俺も初対面だったんだけどね、
マユ はい

コータ この顧問が、演劇部に来る、って言ってたのは、
部長さんじゃなくて部長さんの妹さんだったわけでー
マユ すみません、みなさんを誤解させて、

柴田 ううん、それはこっちが勝手に勘違いしただけだから、うん。
リコ それより今の話：

エマとシオリが入ってくる。

エマ どうしたの？

柴田 エマ：

シオリ なに？

柴田 部長、学校やめるんだって。

エマ え？ なに？

マユ とりあえず私は、姉の私物を取りに来ただけで、
コータ ほら1年生だし、他のクラブって入りにくいよなー。

あ、ハジメ、妹さんねー

ハジメ 学校やめるって、なんですか？

間

マユ 私も、くわしいことはあまり：

ハジメ 部長さん、なにか言ってますでした？

マユ 最近私はあまり話してなくて：

エマ 学校やめて、どうするの？

マユ さあ：でも、高卒の認定？資格をどこかで取るようなことは聞きましたけど：

マユ、柴田から渡された紙袋（部長の私物）を手取る。

マユ じゃあ、これで、

リコ 待ってください！

マユ 部長さんにカレシとか、いましたか？
は？

リコ ほら、モトカレからストーカー被害に遭って、逃げて身元を隠すとかありますよね？
シオリ （小声） ええ、

エマ まだこだわってたか。

ハジメ （衝撃）

マユ 特にそんな話は、

柴田 そんなこと、あるわけないよねー

リコ ストーカーって、自分のことはストーカーだと気づかないで、被害者を追い詰めるとか聞いたことがあります。

ハジメ ヒガイシヤ…（呆然）

エマ いや、ストーカーという単語自体どうかと、

シオリ そう！ もし部長のこと好きな人がいる…いたとして、それをイヤだとか、（思わないから）

きらり 私だったら、いやだな。

シオリ え？

きらり 私はー、私のこと好きな人はキモイと思う。

みんな ええ？

きらり 好きでもない人に好きって言われたら、逃げ出したくなる。

ハジメ えええ？ そうなの？

マユ えーと…この話はなんなんですか？

柴田 あー、気にしないで気にしないで。

マユ じゃあ…失礼します。

マユ、立ち去る。

コータ あ、じゃ、おれも。

コータ立ち去る。

残ったみんな、無言で顔を見合わせる。

ハジメ、走ってマユの後を追う。

リコ ハジメくん？

■第10場 ハジメのこと

廊下。

コータとマユにハジメが追いつく。

ハジメ ま！ 待ってください、部長さん！

コータ の、妹だよ。

ハジメ の、妹さん。

マユ はい。

ハジメ 部長さんに伝えてください！ おれ、ハジメから、ごめんなさいって。
マユ は？

ハジメ それだけでわかりますから！

マユ いや、わかる、と思います。たぶん…（だんだん自信をなくす）

マユ お姉ちゃんの…カレシですか？

ハジメ ととんでもない！

オレは単に…、キモイ…キモイ、後輩だけです…

コータ ハジメ…

マユ お姉ちゃんのこと…？

音楽

照明変わる。

ハジメとコータにサス。

ここからハジメの回想（みたいなもの）。

ハジメは【部長】を演じ、コータは【ハジメ】を演じる。

ハジメ【部長】 ああ、ハジメくん。

コータ【ハジメ】 部長、一人ですか？

ハジメ【部長】 ハジメくん、もう帰ったかと思ってた。

コータ【ハジメ】 なんでダメなんですか。

おれが後輩だからですか。

ハジメ【部長】 ダメって…演劇部、部内交際禁止だし…

コータ【ハジメ】 え？ そんなルールが？

じゃあおれ、クラブやめます。

ハジメ【部長】 うそそう。そんなのないから。

コータ【ハジメ】 おれのこと、からかってるんですか。

ハジメ【部長】 ごめん…

コータ【ハジメ】 やっぱ、おれが相手だと恥ずかしいですか。

ハジメ【部長】 え？

コータ【ハジメ】 柴田先輩とかエマ先輩とか、おれのことバカだと思ってますよね。

ハジメ【部長】（少し笑って）そんなことないから。

コータ【ハジメ】おれに、部長の正直な気持ちを聞かせてください。

ハジメ【部長】正直：正直って、何だろう？

コータ【ハジメ】え？

ハジメ【部長】私がハジメくん正直な気持ちを話したとして、

ハジメくんは、それをどれだけ理解できるかな…？

コータ【ハジメ】：おれ、バカかも知れないけど、

でもこの気持ちは、誰がなんと言おうと変わりませんから。

ハジメ【部長】そうかな…？

コータ【ハジメ】部長の気持ちが変わるまで、ずっと変わりませんから。

ハジメ【部長】ハジメくんは、きつとすぐに、ほかのだれかを好きになるよ。

コータ【ハジメ】そんなことないです。

ハジメ【部長】あるよ。

コータ【ハジメ】俺が心変わりなんて、

ハジメ【部長】あるよ。

コータ【ハジメ】地球がさかさまになってもありませんからー！

照明変わる。

コータ そんなことがあったのか。

ハジメ あった…かもしれない。

マユ はあ？

コータ どっちだよ。

ハジメ ラインで告白はした…何回か。

部活の帰りに待ち伏せした…毎日。

コータ おまえキモイな。

ハジメ 後を付いてっただけだよ？

コータ ますますキモイな。

マユ お姉ちゃんは、なんて…？

ハジメ いつも少し困ったように笑ってるだけで、おれには何も話してくれなかった…

おれ…おれは、心変わりしないって思ってた。

コータ してるよな。

マユ してるんですね？

ハジメ もしかして！ だから部長は…！

リコ出てくる。

リコ ハジメくん！

ハジメ リコちゃん！

リコ わかった、わかったわ、ハジメくんの気持ち。

ハジメ え？

リコ 今でも好きなのね？ 好きだから（マユを指して）追いかけるのね？

コータ 妹さんだけど。

ハジメ そんなことないよ！

リコ うそ！

ハジメ 嘘じゃないよ！

ただ！ ただ、部長のこと、オレのせいかもしれないと思うと…思うと！

リコ ハジメくん…

ハジメ オレ、やっぱりキモい？ キモいと思う？

リコ 思わないよ！

だって、リコだってキモいもん。前から、ハジメくんのことをずっとつけてたし。

コータ・マユ え？

ハジメ え？ うそ、いつから？

リコ いつから…それほんとに聞きたい？

コータ 聞きたくない。

マユ （うん）

ハジメ リコちゃんも（つけてたんだ）…

リコ リコ思ってた。ハジメくんてリコに似てるなあって。

だから好きになったのかも。

ハジメ リコちゃん！

リコ リコのことキモいつて思う？

ハジメ 思わないよ、思うわけないだろ。

ハジメとリコ、最高に盛り上がる。

ハジメ （ハッとして）もしかして、リコちゃんも、あれなの？

リコ なに？

ハジメ 好きって言われたらイヤになる？

リコ リコは、好かれるより好きになる方がいい。リコは好きな人を追いかける派。

ハジメくん、リコたちが幸せなら、それでよくない？

ハジメ リコちゃん。

リコ ハジメくん。

二人ハッピーに去る。

コータ なんだったんだ。

マユ わたし、ちょっと戻ります。

マユ、コータから離れ、去る。

■第11場 エマとシオリのこと

部室。

エマとシオリの二人。

シオリ あかね、ちょっと思ったのはね、

部長の件、私たちのせいかも、って。

エマ なんてそう思うの。

シオリ いや、こんなふうに、

部長が帰ってくるのを素直に歓迎できなかったり、

部長が学校辞めるっていうのにどうしたらいいかわからなかったり…

エマ それは違うよ。

シオリ どうして？

エマ よくわかんないけど。

マユが入ってくる。

シオリ また忘れ物？

マユ お二人だけですか？

シオリ シバちゃんたちは、また顧問を探しに行ったから。

マユ 私、ちょっと知りたくなって…

シオリ なに？

マユ お姉ちゃんの…姉のことです。

姉は…姉は、どんな部長でしたか？

照明変わる。

エマとシオリにサス。

シオリの回想。

エマは【部長】を演じる。

エマ【部長】 エマとケンカしたんだって？

シオリ エマが悪い…

エマ【部長】 エマが悪いのね？

シオリ エマって、ときどき…ときどきだけど、すごい自分勝手。

エマ【部長】 自分勝手？

シオリ こーんなちっちゃいことで、すぐ怒っちゃって。

エマ【部長】 ちっちゃなこと？

シオリ そ。ふつう、こんなことで怒る？ってことを怒って、

で「絶交！」って、それなに？

エマ【部長】 絶交かあ…

シオリ 小学生か、ってゆー。

エマ【部長】 小学生かー

シオリ そのオウム返しやめて！

エマ【部長】 オウム返し…

シオリ 部長はなんにもわかってない！

エマ【部長】 …わかってないかなあ？

シオリ それ！

エマ【部長】 …ケンカの理由はなんだったの？

シオリ …言いたくない。

照明変わる。

エマの回想。

シオリが【部長】を演じる。

シオリ【部長】 シオリとケンカしたんだって？

エマ 悪いのはシオリ。

シオリ【部長】 誰が悪いとか、あるー？

エマ シオリ、ときどき陰険なんだよ。

シオリ【部長】 エマもシオリもやさしいよ。やさしい。

エマ シオリは、知ってて意地悪するから。

シオリ【部長】 シオリが意地悪なんてしたことある？

エマ 意地悪に決まってる。

シオリ【部長】 はいはい。

エマ その、お母さんみたいなの、やめて！

シオリ【部長】 お母さんみたい？

エマ 「はいはい」ってくり返すやつ。

シオリ【部長】 …ケンカの理由はなんだったの？

エマ …言いたくない。

照明変わる。

マユ けんかの原因は何だったんですか？

シオリ なんだっけ？

エマ 覚えてないや…

シオリ 差し入れのチョコをエマが食べちゃった…とか？

エマ いっしょに帰ろうって約束破った…とか？

間

シオリ 全部、私たちのせいかもしれない。
エマ そんなことないと思う。
シオリ だって…
エマ 私のせいでこうなった、とか、逆に部長に失礼。
部長に対する私たちの影響力を買いかぶりすぎ。
…だって、そんな影響力あるほど…

間

シオリ （マユに）部長、私たちのことなにか言ってた？
マユ （首を振る）
シオリ 部長、いま、何考えているのかなあ。
マユ …わかりません。

■第12場 シバちゃんのこと

廊下。

柴田ときらり。

きらり やっぱりいませんでしたね、顧問の先生。

柴田 うん。演劇部には、顧問はこちらから探すと永遠に探せないっていう公式がある。

きらり …どうしたんですか？

柴田 友だちじゃなかったのかな。

きらり なんですか？

柴田 あ、ごめん。きらりちゃん相手に。

きらり …友だちって、どこからどこまでが友だちなんですか？

柴田 難しいこと聞くね。

きらり 友だちなら、どうするのが正解なんでしょう？

照明変わる。

柴田ときらりにサス。

柴田の回想。柴田が【部長】を、きらりが【柴田】を演じる。

きらり 【柴田】部長って、中学の時も部長だったんだねー。

柴田【部長】 バレーボール部だけだね。

きらり 【柴田】強かったんだよね。

柴田【部長】 まあまあね。

きらり【柴田】完璧な部長だったって。

柴田【部長】そんなことないよ。

きらり【柴田】みんな言ってたよ、なんで高校で続けなかったのかなあって。

柴田【部長】うん…

きらり【柴田】ま、演劇部としては、それでよかったけど。

いまも、完璧な部長だし。

柴田【部長】そんなことないよ。

きらり【柴田】えー、じゃあ完璧じゃないところを教えろよ、って。

柴田【部長】だって…ほら、練習しててもすぐ脇道にそれちゃうし。

きらり【柴田】それは部長じゃなくて、私たちのせいでしょ。

叱ればいいんだよ。

柴田【部長】叱りたくないな。

きらり【柴田】部長の言うことならみんな聞くから。

柴田【部長】じゃあ、交換してくれる？

きらり【柴田】なにを？

柴田【部長】部長を…

きらり【柴田】え？

柴田【部長】ううん、なんでもない。

きらり【柴田】もしかして…部長…いやだった？

柴田【部長】ううん。そういうわけじゃない…そういうことじゃない…。

照明変わる。

きらり そんなことがあったんですか？

柴田 部長が悩んでる…かもしれないし、って思っても

私は「大丈夫？」とも聞かなかった。

だから部長が何に悩んでたか、全然わからない。

休み始めたときもそうだった。

「風邪ひいた？」とも聞かなかったし…部長も話さなかったし。

きらり ラインとか…

柴田 シオリやエマがしてると思ってた。

ううん、違うな。

向こうから何か来たら、そのときに返信しようと思ってた。

ううん、それも違うな…

きらり 部長さんが学校やめるの、止めないんですか？

柴田 え？…そうか、そうだよね…

きらり 何がそうなんですか？

柴田 学校やめるのを止める、という選択肢、そもそも思いつかなかった。

あーやっぱり私のせいかもしれない。部長のこと全部。

きらり …みなさんそうですね。

柴田 なに？

きらり 全部私のせい、とか、誰々のせい、とか。

…全部何かのせい、とかあるんでしょうか。

■第13場 きらりのこと

部室。

マユのいるところにきらりが入ってくる。

きらり 他のみなさんは帰りましたよ？

マユ 1年生ですよ？

きらり 同学年。

マユ なんで演劇部に入ったんですか？

きらり うーん、

マユ あ、ごめんなさい突然。立ち入ったことを聞いて。

きらり 別にいいけど。

えーと、中学にない部活に入りたくて？ とか。

マユ 私、ほんとは演劇部に入ろうかな…と思ってただけど、

きらり え、ほんと？

マユ だけど、ほら姉のことがあるから。

きらり ああ…

マユ お姉ちゃん、何考えてんのかなあ。

きらり 部長さんが考えていることがわかればいいと思う…？

街のざわめきの音。

照明変わる。

横になっているきらり。

目覚ましの音。

きらりは目覚ましを止める。

（この場面の小物は舞台上には存在せず、あるという体で行う）
また横になる。

再び目覚ましの音。

さっきよりずいぶん長い音。

ようやくきらは目覚ましを止める。

きらは起き上がる。

カーテンを開ける。

また座る。

きらり あーやだなやだな（小声で）やだなやだなやだな。

ノロノロと朝の支度をする。

また座り込む。

マユ お姉ちゃんー、朝ご飯だって。

きらり …うん。

きらり、バッグの中身を全部出して、また中に全部入れる。

マユ お姉ちゃんー、先に行ってるー。

きらり …うん。

きらりカーテンを閉める。

ふとサボテン（サボテンだけは小物を使いたい）を手に取り見つめる。

街のざわめき。

人々が街を行き交う。

音楽

行き交う人々が彼女の心象風景を表す。

何人かはゆっくり踊る。

きらりはそれを静かに見つめる。

照明変わる。

マユ お姉ちゃん、こんなだった？

きらり きっと、こんなじゃなかった。

マユ え、でも、

きらり 私が思っただけ。

マユ え？
どんなふうに学校に行かないのかは違うし。

きらり 私、中学の時、あまり中学に行けてなくて。

高校で、文字通り（笑）高校デビューです。

マユ だったら、

きらり

部長さんの気持ちがわかる、とか思わないでください。

だって、わからないから。

会ったこともないし。

マユ ああ、うん。

きらり 会うこともないだろうし。

マユ うん…

間

きらり もうこんな時間ですよ？

マユ あ、うん。

■第13場 マユのこと

マユ、出ていきかける。

照明変わる。

ここから、マユが【部長】を、きらりが【マユ】を演じる。

きらり【マユ】お姉ちゃん、話聞かせて？

マユ【部長】 なに？

きらり【マユ】あのね、お姉ちゃんと同じ高校に入ろうと思っているんだけど。

マユ【部長】 ああ、そうなんだ。

きらり【マユ】どんな高校？

マユ【部長】 マユは、どんな高校だと思って入りたいの？

きらり【マユ】うーん、よくわからないけど、

マユ【部長】 よくわかんないんだ。

きらり【マユ】お姉ちゃんの通ってる高校。

マユ【部長】 なにそれ。

きらり【マユ】ねえ、

マユ【部長】 えーと…時計台がある。

5階に天文台もある。

きらり【マユ】へー、どんなの？

マユ【部長】 行ったことない。

きらり【マユ】なにそれ。あとは？

マユ【部長】 ひろい屋上がある。

きらり【マユ】へー

マユ【部長】行ったことないけど。

きらり【マユ】行ったことないのばかり。

マユ【部長】高校は広いんだよ…

きらり【マユ】たしかに広そうだねー

マユ【部長】学校は広い…でも、世界に比べれば学校は小さい…

きらり【マユ】なにそれ？

マユ【部長】世界は広い…

きらり【マユ】お姉ちゃん…？

マユ【部長】世界は広い…

照明が変わる。

音楽。

きらり 妹さん。

マユ え？

きらり どうしました？

マユ …うん、なんでも。

きらり あの一

マユ ？

きらり 部長さんによろしく伝えてください。

マユ …会ったこともない部員から？

きらり 会うこともない部員から。

マユ、少しほえんで、手を振る。

マユ じゃあ、また。

きらり じゃあ、また。

マユが出て行く。

少し後にきらりも出て行く。

きらりは最後に部室の明かりを消す。

暗転

音楽高くなる。

幕

※参考 「父帰る」 菊池寛（1917年）

〈おねがい〉

この戯曲は、「佐藤かつら戯曲館」への掲載にあたり記号の表記などを一部改めて打ち直し、体裁を整えたものです。ダウンロードして練習脚本などとしてお使いいただくことができます。実際に上演される際は「佐藤かつら戯曲館」ホームページにあります「上演を検討される方へ」をお読みの上、ご連絡ください。

〈参考〉

2020年上演時の使用楽曲

- ・Hi-STANDARD『Dear My Friend』
- ・奥田民生『それはなにかとたずねたら』
- ・リスト『ラ・カンパネッラ』
- ・ドビュッシー『月の光』
- ・ラヴェル『亡き王女のためのパヴァーヌ』